

「病院や福祉施設で暮らす子どもたちのQOL向上あそびワークショップ体験」

長期入院している子どもたちは治療優先で、友達とふれあったり遊んだりすることが制限され、仕方がないとあきらめたり我慢を強いられている。また、児童相談所で暮らす子どもたちは、日常生活の中に遊びや体験が不足している。子どもは仲間といっしょに声を出して笑ったり、楽しく「あそぶ」こと等、QOL 向上のとりくみが必要である。病院や施設向けにプログラム化した工作や音楽、遊び等のワークショップを届け、付き添う保護者や職員も一緒に体験します。

報告書



主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-7-16 サンコート新千葉 102 号
 TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <http://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

実施病院名： 独立行政法人国立病院機構 下志津病院

ワークショップ名：「楽しい工作みんなで作ろう！」

日時：2018年7月25日（水）14：30～15：30
場所：プレイルーム
参加者13人
（子ども11人 病院関係者2人）
指導者：（加川きみ子 北野美子
梶原留理子 柳野郁美）

ワークショップの内容

・ばたばた工作・ポンポンあおむし・
模様の美しい切り絵・ストロートラ
イアングル



みんなとっても楽しそうに作り始めた。中学生は友だち同士おしゃべりしながらおもしろがって作った。茶色の色画用紙で日焼けした桃太郎やスライムの顔に変化させるなど自由に自分の発想で発展させながら作っていた。ポンポンあおむしは個性が出てどれもかわいらしく仕上がった。「1個目は自分、2個目からはお父さんお母さんにあげるんだ」と、頑張って完成させた子もいた。



切り絵は、折り紙をはさみで模様通りに切るのは難しかったが、丁寧に切っていた。赤と黒、緑と金と和の雰囲気の色を組み合わせが素晴らしい。子どもたちはデザインに満足し、出来上がると嬉しそうに保育士に見せていた。

子どもの声

- ・すごく楽しくできて、ばたばた工作の作り方もわかってよかった。
- ・ポンポンあおむし作れてよかったです!カワイイです!♡
- ・きりえ。はじめてやってすごくむずかしかったけど、楽しくできてよかった。

病院関係者からの声

- ・普段、見られない子ども達の表情、様子を見ることが出来、とても良かった。
- ・いつもいる職員ではない方達と何かを行うという事が、興味やワクワク感を増長させた。
- ・自分の作品を見せたり、友達の作品を見てほめたり笑ったり、とてもよい経験になったと思う。

実施病院名：成田赤十字病院

ワークショップ名：「夏のお話会とかんたん工作」

日時：2018年7月26日（火）10:00～11:30
場所：クリーンルーム廊下
参加者15人
（子ども8人 保護者5人 病院関係者2人）
指導者：（飯野真子 松本裕子
古賀恵美子 廣瀬節子）

ワークショップの内容

・しかけ絵本「ほしい」 エプロンシアター「おむすびころりん」
・大型絵本「ドライブにいこう」
・ハーバリウム ・打ち上げ花火



絵本の話が進むにつれて本がどんどん伸びていくのがおもしろいのか、みんな真剣に見ていた。大型絵本の細かい絵をよく見て、「ぞうさんがいる!」と見つけ出す子もいた。

工作のハーバリウムは、男子は、中に入れるものをサッと決めて完成させたが、女子は、ビー玉やスパンコールなどを色々と選び組み合わせを楽しんで時間をかけて仕上げた。打ち上げ花火でも好きな色を選ぶ様子が微笑ましかった。



子どもの声

- ・楽しくつくれてよかった。
- ・ハーバリウムオイルの工作は普段できることではなく、自分なりに工夫もできとても楽しかった。見た目も涼しげで夏にぴったり。

保護者からの声

- ・作った後おもちゃでよくあそんでいる。。
- ・ハーバリウムは中に入れる種類が多くて選ぶのが楽しく、とてもきれいで癒された。
- ・夏を感じるととてもステキな作品になった。
- ・おはなしたのしかったです。ハーバリウムと花火の工作も、親子で楽しく参加できてよかった。

病院関係者からの声

- ・子どもたちがとても楽しそうで、その子をみている保護者の笑顔が印象に残った。普段、辛いこともあると思うが、それを忘れて夢中になっていたことが成果です。子どもの笑顔で保護者は救われていると思います。保護者にとってもすばらしい事業だと感じた。

実施病院名：千葉県こども病院

ワークショップ名：「夏休み!わくわく工作!」

日時：2018年8月1日(水) 10:30~12:00
場所：1Fロビー図書コーナー
参加者 62人
(子ども40人 保護者20人 病院関係者2人)
指導者：(大塚るい 長谷川詠香
堀米良子 鈴木佳子)

ワークショップの内容

工作：キーホルダー(ビーズ)
スポンジケーキ ドリームキャッチャー
どうぶつおりがみ・くるくるヘビさん・さかなつり



夏休み中の病院には、術前術後の子どもたち、定期観察を受ける子どもと保護者が多く訪れ、連れてこられた兄弟たちも多かった。子どもたちはみんな静かにじっくりととりくみ、最後まで仕上げで喜んでた。ビニールプールのさかなつりは抱っこされた赤ちゃんから、磁石をぐるぐる回して一網打尽に釣る大きい子までそれぞれの遊び方をしていた。何度も来る子もいた。検査や会計など待ち時間が長いので、工作したり、つくったもので遊んだりすることは子どもにも養育者にも歓迎された。「今日はラッキー!」「今日だけですか?」とお母さんたちの声があった。

子どもの声

- ・たのしかった。またやりたい(多数)
- ・むずかしかったけどなんとかつくれた。またつくりたい
- ・このキーホルダー大事にします
- ・キーホルダーの色のバランスや形のととのえをうまくやるのができた
- ・こんな形のキーホルダーはみたことがなかったのでじぶんのでつくれたのしかった
- ・自分が入院している時は出来なかった体験ができたので楽しかったし、ともだちと交換したりできるのでよかった。

保護者からの声

- ・いろいろな工作を体験させて本人がとても楽しかった。
- 夏休み中とてもいい経験だった。
- ・今日は検査で大変だったけど検査が終わって楽しい制作があって本人はニコニコ!ママもニコニコ!ありがとうございました。

実施病院名：千葉大学医学部附属病院

ワークショップ名：「わくわく工作 作ってあそぼう」

日時：2018年8月23日(木) 10:00~11:30
場所：クリーンルームとプレイルーム
参加者 25人
(子ども13人 保護者8人 病院関係者4人)
指導者：(加川きみこ 椰野郁美
塩沢千秋 市川淑江)

ワークショップの内容

- ・ばたばた工作
- ・ぼんぼんあおむし
- ・切り絵



ピンク、紫、白、緑と色とりどりに並んだ材料のポンポンを両手で押しやり顔を近づけてほっぺに触る感触を楽しんでいる幼児の姿があった中高生も出てきて「かわいい!」とポンポンあおむしは人気。パタパタ工作でトンボや蝶を作った子どもたちは、羽の絵柄になるシール貼りに熱中した。好きなように紙を切り、棒に貼った子は、とても気に入ったようでニコニコと笑っていた。

子どもの声

- ・材料を自分で選んでオリジナルのあおむしができて楽しかった。もっとちがうものも作ってみたい。
- ・かんたんそうに見えたけど、こまかい作業でびっくり。入院してからあんまり工作をやっていないので楽しかった。

付き添いの親たちは子どもと仲良く作り「今日は良かったね」と声を掛け合い、家での子どもの様子を話してくれた。



保護者からの声

- ・病室で退屈そうにしていたのでこのイベントがあり親子共に楽しめた。
- ・久しぶりの工作。とても真剣に取り組んでいた。
- ・初めての入院で気が立っている息子にやさしく接してくれてありがたかった。自分の好きなように工作ができて、たくさんほめてもらってうれしそうだった。おかげで今にも病院から逃げ出しそうだったのに、少し抵抗感がなくなったようだった。

病院関係者からの声

みんな、色とりどりの材料に目移りしながら制作に夢中だった。時間を忘れて楽しむことができ、入院・治療への不安を和らげる一助になったかと思う。また、一つの作品を完成させて達成感を味わうことができた。

実施病院名：千葉市立海浜病院

ワークプログラム名：「おはなしつくる！」

日時：2018年9月27日（木）10：00～11：30
場所：プレイルーム
参加者47人
（子ども21人 保護者17人 病院関係者9人）
指導者：（大崎あけみ 清水百世
鈴木佳子 白鳥みゆき）

ワークショップの内容

「どうぶつサーカス」の絵本、「ねずみちょうじゃ」の紙芝居 ふうとうかみしばい 折り紙



絵本や紙芝居に子どもたちはくぎ付け。サーカスでぶたが空を飛ぶシーンでは、演じ手のよびかけに合わせて「5, 4, 3, 2, 1!」の掛け声をかけ、「すご〜い!」と拍手していた。2年生の男の子、かくれんぼのふうとうかみしばいを作りたいとチャレンジした。自分の思いのままカラフルな車を何枚も描いた。後でふうとうかみしばいを演じてみせてくれた。

子どもの声

- ・絵本や紙しばいを読み聞かせてもらうのは久しぶりで、おもしろかったです。読み方上手でお話がよくわかりました。
- ・またきてくれるかな～

絵本とかみしばいをもって7部屋を訪問。ニコニコしながら聞いてくれた幼児2人の部屋。体を乗り出して聞いていた。お母さんもいっしょに、面白そうに聞いていた。

保護者からの声

- ・おやこ共にこのような時間があると、リフレッシュできて良いと思った。
- ・気分転換になりました。病室に戻っても、お土産のペンギンをずっと手にもって遊んでいました。
- ・絵本と紙芝居とても楽しかったようです。ペンギンを封筒から出し入れて遊んでいます。身近なものでこんなに楽しめるんですね。

病院関係者からの声

- ・小学生から幼児（2歳）まで年齢層が広いのに、集中してそれぞれとても楽しんでいてよかったです。
- ・治療の痛みやストレスをかかえている子どもの入院生活を、楽しい思い出にしてくれます。是非また来て!

実施施設名：国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国府台病院

ワークプログラム名：「世界でひとつの万華鏡を作ろう！」

日時：2018年12月11日（火）9:30～11:30
場所：院内学級小学校
参加者13人
（子ども6人 保護者3人 施設関係者4人）
指導者：（濱美幸 井澤智子
波多陽子 奥あゆみ）

ワークショップの内容

- ・六面万華鏡
- ・ビーズストラップ



教室の準備から子ども達も一緒に始めた。直ぐにコツをつかみ熱心に取り組んだ。腕が疲れて中断した子、主治医が様子を見にきたがまだ入ってこないでと押し戻し再開。スタッフの声掛けもあり、削り終わり満面の笑顔になった。色付けも考え完成してわあっと思わず声を上げた。あちこちから想像していた通りができたという満足げな声や、思っていたのと違ってキレイ、かわいい、と意外性を楽しむ声も聞こえた。みんなで見合っ楽しんで。

ビーズを自由に選ぶストラップ作りは男女関係なく「もう一つ作っていいですか?」「弟の分も作ろう!」と、作っていくうちに、もっとやりたいという意欲が出ていた。

子どもの声

- ・おもしろかった。またやってみたくておもしろかった
- ・もうちょっとしたかったけど楽しかった
- ・最初はたいへんだったけど出来たら嬉しくて楽しかった
- ・うでがつかれたけど楽しかった。
- ・万華鏡作りも、ストラップ作りもうまくできて楽しかった。



保護者からの声

- ・みんなそれぞれの見方があり、それぞれに個性がでていて楽しかったですよね
- ・万華鏡製作過程も楽しく出来上がりもとても素敵で感動した。子ども達の作品もそれぞれ違って素敵だった。ストラップ作りも楽しかったです。
- ・子どもたちひとりひとりがオリジナルで集中して取り組んでいたのが印象的だった。みんなと違って大丈夫って安心感があるのだなあと嬉しくなった。こういう経験をさせてもらえてとてもありがたい。

病院関係者からの声

- ・制作しながら多くのコミュニケーションが生まれてひとりひとりが積極的に動いていたので良いと思った。
- ・①集中して打ち込む時間が持てたこと ②全員が完成し自信を持つことができたこと ③知らない方々と一緒に活動できたこと ④保護者のことをほとんど気にせずに活動を進められたこと などが事業の成果であり、かつQOL（クオリティー・オブ・ライフ）向上につながったのではないかと。

実施施設名： 千葉県君津児童相談所

ワークプログラム名：「体を使っていっしょにあそぼう」

日時：2018年7月5日(木) 13:30~14:30
場所：2F 会議室
参加者 21人
(子ども12人 施設関係者9人)
指導者：(大淵弘幸 山脇明日香
岡田泰子 鈴木佳子)

ワークショップの内容

「色おに」「震源地は誰だ!」「うん、そうしよう!」「伝言ゲーム」



「今日は遊びます!」のあいさつにみんなにこにこ顔。幼児から中学生までの幅広い異年齢で遊んだ。「オニさん何色ですか?」大きな声で始まり、お題が出るたびにわあわあと、大騒ぎで走り回ってタッチ。



「震源地は誰だ!」で中3の子がオニになったとき、みんなクスクス笑いながら目くばせしポーズを変えるが、鬼はすぐわかった。2回目は作戦を変え子どもたちのチームワークづくりのチャンスだ。作戦は見事に決まった。「伝言ゲーム」は最高に面白かった。『梅干し』のお題で、酸っぱいジュスチャーで順調に進んだのに、途中なぜかレモンに、梅干しに戻ったと思ったら、最後の先生の答えが「みかん!」と自信満々に行ったのでみんなひっくり返って大笑い!子どもたちと先生方の楽しい時間はあっという間に終わった。

子どもの声

- ・一番楽しかったのは「伝言ゲーム」。自由時間の遊びにやってみようと思う。
- ・一番たのしかったゲームは「うんそうしよう」。またやりたい。
- ・今まで知らなかったゲームもありとっても楽しかった。ありがとう。またきてください。

施設関係者からの声

- ・子どもたちの笑顔がたくさん見れてとてもうれしかった。職員もたくさん笑った。
- ・保護所での毎日は単調で、かつ年齢幅が広いので、みんなで遊ぶことがないのが実情。たくさん遊んで、たくさん笑ってとても良い時間がすごせた。
- ・年齢 性別 立場を超えて関わりあえる楽しさ、大人と一緒に楽しむことの大事さを改めて学んだ。

実施施設名： 千葉県東上総児童相談所

ワークプログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年7月17日(火) 13:30~14:30
場所：2F 多目的室
参加者 29人
(子ども13人 施設関係者16人)
指導者：(B. B. モフラン ダウディ
典子 棚田純子)

ワークショップの内容

・トーキングドラムで「どんぐりころころ」
・日本語に似た名前の紹介 アフリカの太鼓をたたくワーク ・「マライカ」・「ハクナマタタ」でダンス ・アンコール



「ジャンボ!」とあいさつ、太鼓のリズムに乗って「♪じゃんぼ じゃんぼ♪」と歌い、もっと大きな声で!と促すと、声が少しずつ出てトーキングドラムの「どんぐりころころ」に自然とみんなが歌った。「コロコロカタコリソー」という歌でカタコリと聞こえてざわざわ。スワヒリ語で「気をつけて」の意味だと知り「へえ!」と顔を見合わせていた。ドンドンバとジャンベを叩くワーク。「ぶたにくたべたいな やきとりたべたいな」と声を出しながら子どもも職員も全員挑戦。「笑顔でハッピーな気持ちでねと!」とモフランさん。エンディングは、全員立って「ハクナマタタ」でダンス。頭 肩 腰 ブルブルルル 何度も繰り返して踊った。小さな子たちが前に出て踊る。笑顔もあり、声も出ている。モフランさんが歌いながら踊りながら、メッセージ「くよくよしない 失敗してもだいじょうぶ 元気を出して・・・」音楽や言葉かけから出る「心のアタッチメント」が子どもたちを勇気づけていた。



子どもの声

- ・ギターも歌もうまく歌声がきれいでとても印象に残った。またぜひきてください。
- ・アフリカの人に始めて会った。すごく勉強になった。
- ・やぎのかわがはってあるたいこにびっくりした。どんどんたのしくなった。太鼓にさわられてうれしかった。
- ・アフリカと日本の言葉が同じようで意味が違うことを聞いておもしろかった。
- ・すごいはくりよくがあつて楽しかった。かつこいい。アフリカの楽器も初めてでうれしかった。

施設関係者からの声

- ・一見シャイですが、心の中では楽しんでます。子どもたちと一緒に過ごすことができうれしかったです。

実施施設名：千葉県市川児童相談所

ワークプログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2017年7月23日(月) 10:30~11:30
場所：講堂
参加者 32人
(子ども26人 施設関係者6人)
指導者：(B.B.モフラン ダウディ
典子 棚田純子)

ワークショップの内容

トーキングドラムで、「どんぐりころころ」日本語に似た言葉の紹介、太鼓を叩くワーク、マライカ(天使)のハーモニー。全員でハクナマタタに合わせてダンス、アンコール。



緊張した様子の子もたちが、太鼓を打ちながら入場したモフランさんたちを見て、目が大きくなった。女子は友だちに体をくっつけながらにこにこ。



太鼓ではみんな楽しそうなパフォーマンスと表情に変わった。男子中学生は、最初から興味津々で、ノリもよくダンスも楽しんでた。先生たちがとても楽しんで声を出したり、体を動かしたりしていたので、安心したようだ。帰る時に太鼓の掛け合いの「イチゴ・食べたい」と言いながら階段を下りていった。

アフリカンビートにみんなのエネルギーが湧き上がってきた。

子どもの声

- ・ジャンボー！！たのしかった！！おとうとが、とてもノリノリでたいこをたたいていた！！アフリカでは日本語がちがういみに聞こえることにビックリ！またたいこをたたきたい！
- ・すごく楽しかったし、アフリカの音楽に興味を持った。
- ・しゃべりたいこなどおもしろい楽器があって、牛や、羊の皮を使っており、体験するときに牛の毛がついていて牛をたたいている気分になりました。

施設関係者からの声

- ・はじめ雰囲気慣れるまでは緊張していたようだが、いつの間にかアフリカンリズムを楽しんでいた。自分で太鼓を叩き上手だねと褒められ、うれしそうにモフランさんとタッチする姿をみて、みんな生き生きに挑戦できたと思った。
- ・みんな”楽しかった”という発言が聞かれた。はじめ泣いていた幼児の女児が、「わ～、楽しかったよ～」と、笑顔で伝えてきた。普段できない体験をし、体を動かすことで視野が広がったと思う。

実施施設名：千葉県銚子児童相談所

ワークプログラム名：「人形劇&ワークショップ」

日時：2018年7月26日(木) 11:00~12:00
場所：大会議室
参加者 28人
(子ども18人 施設関係者10人)
指導者：(納富俊郎 納富祥子
椎名好子 滝口淳子)

ワークショップの内容

しろくまちゃん ウレタンロボット
おじいちゃん くねくね ねんねこ
ねこのこもりうた
ばたばたちょうちょ とんぼづくり
うごかしてみよう！



しろくまちゃんがでてくると幼児はすぐに指さして「早い！」「つぶれちゃうよ！」アハハハと笑いうれしそう。保育士も大きな声で笑っていた。しろくまちゃんがすべり台などたくさん遊び、子どもたちも一緒に遊んでいる気持ちになったのだろう。子どもの声がたくさん出ていた。ウレタンロボットの登場に「お！！」という反応。準備体操に大笑い。小学校の子どもたちはひっくり返って笑った。



中学生の子もニコニコ顔で隣の子に「おかしいね」とアイコンタクト。ワークでは、紙とウレタンで動きのあるチョウがでることに驚き、みんな熱心に作りあげた。年長男子はとても満足、個性あふれる蝶になった。女子は、おしゃれな色使いやデザインで作っていた。



子どもの声

- ・最初人形劇ときいて、糸を使って人形を動かす人形劇を想像したが、まさかウレタンを使った人形がでてくるとはびっくり。ウレタンや紙を使ったチョウなど、こんな使い方があったんだと驚いたことも多くとても楽しかった。またきてください。
- ・ウレタンロボットの人形劇と、チョウ作りがたのしかった。
- ・最初からおもしろかった、チョウを紙やスポンジでつくる考えはすごいと思う。

施設関係者の声

- ・普段落ち着きのない子も最後まで座って、児童全員が集中して観ることができた。児童の情緒安定に成果があった。
- ・自分の作りたいものをつくることで創作意欲が刺激され、幸せな時間が過ごせた。

実施施設名：千葉県柏児童相談所

ワークプログラム名：「アフリカンリズム&パーカッション」

日時：2018年9月5日(水) 13:30~14:30
 場所：食堂
 参加者 40人
 (子ども24人 施設関係者16人)
 指導者：(B.B.モフラン ダウディ
 典子 棚田純子)

ワークショップの内容

ライオンキング、どんぐりころころ、おもちのチャチャチャ、マ・メ
 アフリカの国のこと、日本語とアフリカの言葉 タイコをたたく ダンス体験 パレード、アンコール曲ソーラン



モフランさん入場「スゲェ かつこいい！」と男子は最初からノッていた。太鼓の響きは体の中にあるエネルギーを湧き立たせるんだなと感じた。「ダウディはしまじろーの歌の人よ！」「え〜？」「モフランは初代ライオンキングに出演したのよ！」「かつこいい！」。ライオンキングの鳥や動物の音が聞こえるとシーンと聴き入っていた。



中学女子は「ミソ」は日本語で「目」で味噌汁は「目玉スープ」だと聞いて顔の表情がほぐれ、笑顔になり、モフランワールドに引き込まれた。太鼓をたたくワークの幼児はなんとかわいい。会場いっぱいみんなの温かい笑いでいっぱいだった。

子どもの声

- ・日本語とアフリカ語のちがいがおもしろかった。ダンスもおもしろかった。たいこをたたくのもおもしろかった。
- ・ジャンベがたのしかった。またきてください。
- ・楽きをたたかせてくれた時、たいこが思ったより硬くてびっくりした。またたいてみたい。
- ・おどったりして楽しかった。またおどりたい。
- ・本当のアフリカのたいこが心に残った。明るい歌があった。それはライオンキングのうたやいろんうた。

施設関係者の声

本物の生音を聴いたとたんに子どもたちの表情が明るくなった。自分のリズムで音を楽しんでいた。子どもたちの楽しそうなキラキラかがやく目、演奏にひきこまれているのを感じた。衣装や地図、ポスターなどアフリカの雰囲気を感じているのが伝わってきた。普段あまり表情のかわらない子たちが本当にうれしそうに演奏をきき、体を動かしていた。子ども達が小さい頃から本物に触れることがいかに重要なことであるか、再認識した。

ワーク実施一覧

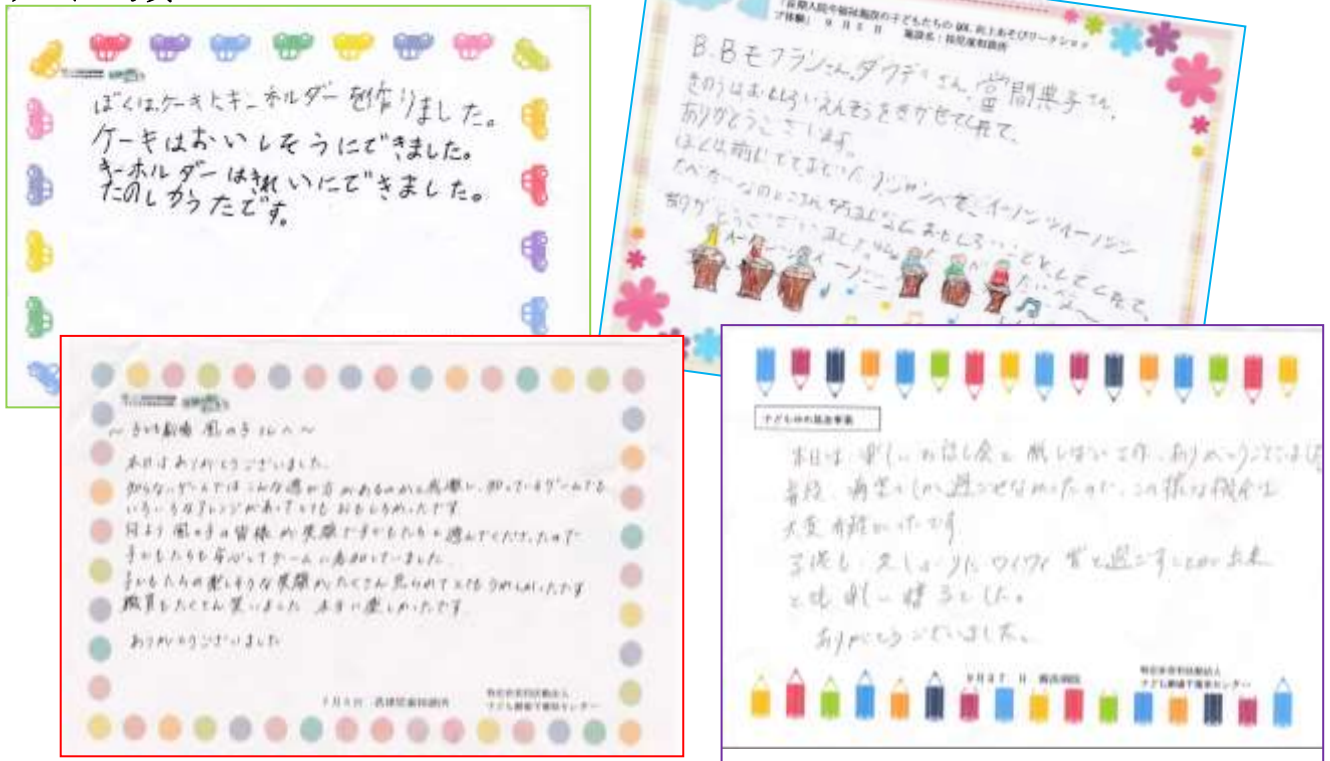
●実施病院 6か所

NO	実施日・時間	実施病院・施設	指導者	指導者数	総参加人数	子ども	大人	協力者数
						参加人数	参加人数	
1	7月25日(水) 14:30~15:30	下志津病院 プレイルーム	楽しい工作みんなで作ろう 加川きみ子他	4	13	11	2	4
2	7月26日(木) 10:00~11:30	成田赤十字病院 クリーンルーム	夏のお話と簡単工作 飯野真子他	4	15	8	7	4
3	8月1日(水) 10:30~12:00	こども病院 1Fロビー図書コーナー	夏休みワクワク工作！ 長谷川詠香他	4	62	40	22	4
4	8月23日(木) 10:00~11:30	千葉大学附属病院小児科 クリーンルーム・プレイルーム	わくわく工作 作ってあそぼう 加川きみ子他	4	25	13	12	4
5	9月27日(木) 10:00~11:30	海浜病院 3Fプレイルーム	おはなしつくる！ 大崎あけみ他	4	47	21	26	4
6	12月11日(火) 9:30~11:30	国府台病院 院内学級小学校	世界でひとつの万華鏡を作ろう！ 濱美幸他	4	13	6	7	4
合計		6か所		24	175	99	76	24

●千葉県内児童福祉施設 5か所

1	7月5日(木) 13:30~14:30	君津児童相談所 2F会議室	体を使っていっしょにあそぼう 大潤弘幸他	4	21	12	9	4
2	7月17日(火) 13:30~14:30	東上総児童相談所 2F多目的室	アフリカンリズム&パーカッション BBモフラン他	4	29	13	16	4
3	7月23日(月) 10:30~11:30	市川児童相談所 2F講堂	アフリカンリズム&パーカッション BBモフラン他	4	32	26	6	4
4	7月26日(木) 11:00~12:00	銚子児童相談所 2F大会議室	人形劇&ワークショップ 納富俊郎他	4	28	18	10	4
5	9月5日(水) 13:30~14:30	柏児童相談所 1F食堂	アフリカンリズム&パーカッション BBモフラン他	4	40	24	16	4
合計		5か所		20	150	93	57	20
総合計		11		44	325	192	133	44

アンケートの写真



成果

実施箇所数を拡げ、病院6か所 児童相談所5か所 参加人数325人(子ども192人 大人133人)だった。病院や児童相談所との丁寧なヒアリングや打合せを行い、ニーズを把握した上で指導者を選び、体験型ワークプログラムを提供した。あそび 自己表現 交流等の体験ワークは、子どもたちはもちろんのこと、先生方もいっしょにはじけるような笑顔であふれた。遊びのプログラムの中に相手を感じることや、相手の動作やしぐさをよく見ないとできない要素が盛り込まれている。知恵や工夫や協力、ルールが必要で、何度も遊ぶうち、おもしろさを発見したようだ。児童相談所の先生方から子どもの自発性ややる気、集中力を育てる良いプログラムとの評価を得た。病院からは、治癒力が高まること、治療と入院のストレスが軽減されることなど、指導者の力や芸術の持つ力を、子どもの姿を通して職員や保護者が実感したとの評価を得た。継続することが QOL 向上・子どもの生きる力につながっている。この事業に20名のコーディネーターがかかわった。計画から実施まで、蓄積した専門性を発揮した。



【コーディネーター】 市川淑江 宇野京子 大森智恵子 岡田泰子 買場都明 加藤香都代
 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 白鳥みゆき 鈴木佳子
 滝口淳子 多田優子 棚田純子 戸田綾 渡慶次康子 中村雪江
 中村幸恵 綿貫のぼら

「病院や福祉施設の子どものためのQOL向上あそびワークショップ体験」 報告書

発行日：2019年 1月 8日 (火)

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします